

# 積水化成品グループ 100年ビジョン

— 創立100周年(2059年)に向けて —

## 積水化成品グループ (2022年4月1日現在)

積水化成品工業株式会社  
株式会社積水化成品北海道  
株式会社積水化成品東北  
株式会社積水化成品東部  
株式会社積水化成品ウレタン  
株式会社積水化成品関東  
株式会社積水化成品群馬  
株式会社積水化成品埼玉  
湘南積水工業株式会社  
株式会社積水化成品ヤマキウ

株式会社積水化成品中部  
株式会社積水化成品近江  
株式会社積水化成品滋賀  
株式会社積水化成品堺  
株式会社積水化成品関西  
株式会社積水化成品天理  
株式会社積水化成品西部  
株式会社積水化成品大分  
株式会社積水化成品沖縄

Sekisui Kasei Korea Co., Ltd.  
台湾積水化成品股份有限公司  
天津積水化成品有限公司  
積水化成品(蘇州)科技有限公司  
積水化成品(上海)国際貿易有限公司  
積水化成品(上海)精密塑料有限公司  
積水化成品(香港)有限公司  
PT. Sekisui Kasei Indonesia  
Sekisui Kasei (Thailand) Co., Ltd.  
Sekisui Kasei U.S.A., Inc.  
Sekisui Kasei Mexico S.A. de C.V.

Sekisui Kasei Europe B.V.  
Proseat Europe GmbH  
Proseat GmbH + Co. KG  
Proseat Verwaltung GmbH  
Proseat Schwarzeide GmbH  
Proseat LLP  
Proseat SAS  
Proseat Foam Manufacturing, S.L.U.  
Proseat Mladá Boleslav s.r.o.  
Proseat Sp.zo.o

全40社(国内19社・グローバル21社)

制作 積水化成品工業株式会社  
VISION2022プロジェクト

2009年10月1日[初版]  
2015年10月1日[第2版]

2023年1月1日[第3版]

SEKISUIKASEI

## 100年ビジョンへの思い



積水化成製品グループ100年ビジョンは、2009年に制定しました。  
このビジョンにおいて、私たちが目指す姿を設定しています。

「全員経営」のカルチャーがグループ員に浸透し、  
皆がこれを実践して、真のグローバル企業へ変革するとともに、  
人と環境を大切にす経営を通じて社会的責任を果たす

2059年(創立100周年)の未来像をこのように描きました。

2023年の今、世界は、将来の予測が困難な「不確実性の高い時代」に突入  
したとされています。環境・社会課題解決への取り組みの重要性は  
一層高まり、感染症の流行を経て人々の生活様式や行動様式も変化し、  
デジタル技術革新やライフスタイル・価値観の多様化など、さまざまな  
要因が複雑に絡み合いながら、これまでにないスピードで大きな変化が  
発生する時代を迎えています。

激動する未来に向け、私たちの目指す姿を描いた100年ビジョンの改訂に  
ついて、1年以上の歳月をかけプロジェクトメンバーと議論してきました。  
未来の不確実性が高いからこそ、私たちは改めて「原点」に立ち返る必要  
があるという意見で一致し、企業の存在意義かつ最上位概念である経営  
理念にまで遡り、経営の上位概念を「理念体系」として整理しました。  
また、未来予測が困難な時代にあり、事業の目指す姿は、より近未来の  
2030年をターゲットに描き直してみようではないかと考え、2059年の売上  
高目標は不変としながらも、従来の事業ビジョンを全面的に見直しました。

創立100周年に向け、原点に立ち返るバイブルとして大切に、折に触れて  
見返し、沸き立つ思いをもって同じ志を胸に全員で前進していきましょう。

2023年1月

代表取締役社長

柏原正人

## 改訂ポイントと背景

### ● 理念体系を定義

未来の不確実性が高まる時代だからこそ、改めて「原点」に立ち返る必要があると考え、経営の上位概念を見つめ直しました。企業の存在意義である経営理念は不変としつつ、これを最上位概念とした理念体系を定義しました。

### ● コーポレートビジョンを改訂

激動の未来でも、創業からのDNAである「人を大切にする精神」と、従来から注力してきた地球環境への配慮に加え、当社ならではの化学技術を生かした新たな価値創造を通じて、環境・社会課題を解決する企業でありたいという思いを込め、改訂しました。

### ● 行動規範を改訂

従来の行動規範をベースに、経営理念とコーポレートビジョンを踏まえつつ、グローバルに広がるグループ員への理解と浸透を強く意識し、一言で分かりやすく明快な表現に改訂しました。

### ● 2030年に目指す事業の方向性「Target2030」を制定

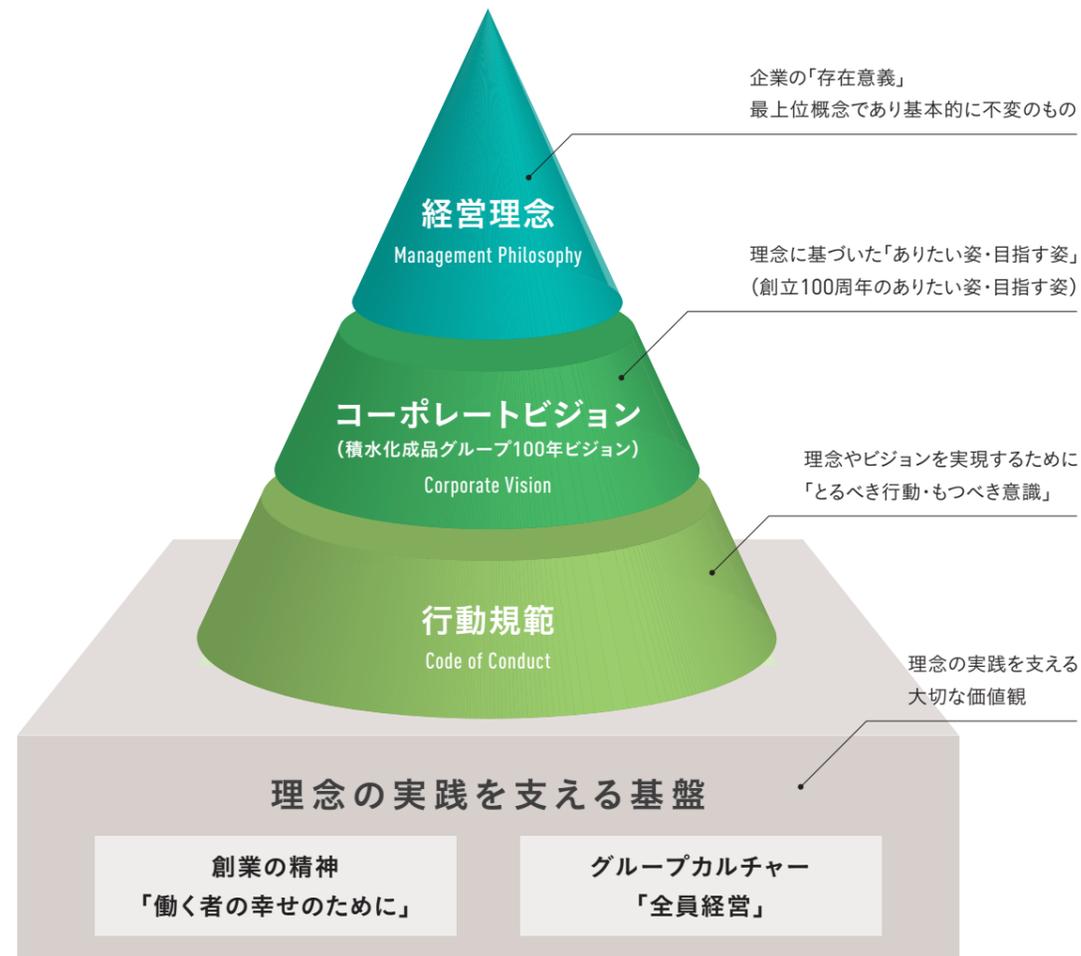
未来の不確実性が高まる中で、事業の目指す姿は、より近未来の2030年をターゲットに描き直そうという考えに至り、2059年の売上高目標は不変としながらも、2030年に目指す事業の方向性を描きました。

### ● CSRビジョンを「積水化成製品グループのサステナビリティ方針」に改訂

持続可能な社会の実現と持続的な企業成長との好循環を目指すという思いから、守りを起点とする企業の社会的責任としてのCSRから、サステナビリティに変更しました。

### ● カルチャービジョン「全員経営」を理念体系内に統合

「全員経営」は、経営理念の実践を支える重要な基盤であるとの認識で一致し、創業の精神「働く者の幸せ」と共に、当社グループの理念体系内に統合しました。



## 理念の実践を支える基盤

### 創業の精神

#### 「働く者の幸せのために」

“働くことを通じて生みだされる価値が、自分自身、家族、顧客、関係者、社会のすべてを幸せにし、それが私たちの「働く者の幸せ」に繋がる。”として、これを創業の精神に掲げています。

#### 創業者の経営思想

企業は、自ら働き自らの手によってかち得た報酬によって人間として幸せたらんとするものの神聖な「場」であり、その中に働くことの意義、価値、生き甲斐を見出すと同時に、利潤追求は働くものの幸福追求の「手段」である。

### グループカルチャー

#### 「全員経営」

積水化成品グループ員一人ひとりが、グループ全体の目指す姿をよく認識した上で、個性や個人の強みを活かしつつ、チームとして結集し、協働することで、目標を達成する。それが、グループ全体のより大きな成果に繋がっていく。これが、私たちが大切にしている全員経営のカルチャーです。

## 経営理念

われわれ積水化成品グループは、  
人間尊重と相互信頼を基本に全員経営を実践し、  
“新しい幸せ”を目指して常にイノベーションをし続けます

私たちは、人々の多様性や相手の立場を尊重し、理解を深めることで相互信頼の絆を生むという「人間尊重と相互信頼」の思想と、グループカルチャーである「全員経営」の思想を創業期から大切にしています。また、あらゆる革新に挑戦し続け、地球環境・社会・人々の暮らしに新しい価値を提供し、世界の人々を幸せにしていきます。

## コーポレートビジョン

人と地球を大切に、新たな価値を創造する  
ニューケミカル・ソリューション・カンパニー

創業時からのDNAである「人を大切にする精神」、従来から注力してきた「地球環境への配慮」に加え、「新たな価値」を創造し、「化学の力で環境・社会課題を解決する」ことで持続可能な社会の実現に挑戦し、当社グループの持続的成長との好循環を生み出していくという強い意志が込められています。

※コーポレートメッセージ「人と地球の、美しい未来へ。」「Our Planet, Our Tomorrow.」は、グループビジョンを多様な人材が理解・共感し、日々の行動に反映できるよう、端的で明快に表現したものです。

※定量目標 連結売上高 5,000億円以上

## 行動規範

Entrepreneurship - 起業家精神 -	革新的なビジネスモデルや素材開発など、新たな成長機会を追求する高いモチベーション、独創的な発想、創造意欲、高い独立心、リスクに対して果敢に取り組む姿勢を大切にします。
Honesty - 誠実 -	一人ひとりが誠実であることはもちろん、法令遵守をはじめ、社会的責任の遂行と企業倫理を実践します。
Harmony - 調和 -	人との調和、社会との調和、地球環境との調和を大切にします。



## グループカルチャー「全員経営」

当社の理念実践を支える基盤に、グループカルチャー「全員経営」があります。  
これは、当社創業期に生まれた「全員参加経営」の思想を発展させたもので、現在も大切に育んでいます。  
創立100周年に向け、時代を超えて伝承していきたい当社のDNAです。

### 受け継ぎたいDNA①

## 全員経営の心 ～ 福本 正雄のこぼ ～

設立当時からの実質的な責任者であり、三代目社長となった福本正雄は、社員全員が経営に参加する「全員参加経営」について次のように語りました。

1959年10月、私は積水スポンジ工業(現 積水化成工業)という発泡プラスチックを専業とする積水グループ子会社の設立担当として、創業事務から事業経営に関する一切の責任と権限を与えられました。創立早々に国際特許紛争に突入し、勝訴と和解に成功したことで事業の目算も立った時に、積水化学工業創立当初より考えていた民主主義経営を今こそ実践するチャンスと、80名の社員の同意と協力を得て、新経営体制の採用に踏み切りました。(1961年社業推

進会(社推会)が発足)  
企業は、自ら働き自らの手によって勝ち得た報酬によって人間としての幸せを追求する神聖な「場」であり、幸せを求めんとする者が、企業経営がいかにあるべきかを自ら考え、提案し、積極的に参加し、自らの手に汗して働くことによるのみ、より多く、しかも公平なる分配を受けることができるという「全員参加経営」の思想と体制を作り上げることになりました。

この時「全員参加経営」の推進組織となったのが、現在も活動を続ける社推会です。  
「企業は働く者の幸せのためにある」という基本理念のもと発足した社推会の取り組みにより、積水化成品には、経営者と従業員がざっくばらんに話し合う企業風土が生まれました。  
その後「全員参加経営」は、自分で考え提案し、自ら進んで行動する「全員経営」の思想へと発展しました。  
私たちは、このDNAを積水化成品グループ員一人ひとりに受け継ぎ、新しい50年を切り開く原動力にしていきます。



第三代社長  
福本 正雄

#### » Profile

1916年生まれ。日本窒素肥料シンガポール事業所で終戦を迎え、日本に引き揚げる。1946年同社に復帰し、他の引揚者のための「積水互助会」設立事務を担当。翌1947年3月、6人の同士と共に「7人の侍」で積水産業(現 積水化学工業)を設立する。1959年10月、積水化成品工業の前身である積水スポンジ工業を設立。1969～1980年第三代社長を務め、「全員参加経営」「年功序列撤廃」など独自の発想に基づく経営を貫き、当社発展に尽くした。

### 受け継ぎたいDNA②

## 全員経営の実践 ～ 起業家・事業家の精神 ～

### 1 起業家の精神

#### 進取の精神、新しいもの(No.1)精神

1960年、日本で初めて国産技術による発泡性ポリスチレンビーズの製造・販売を開始した積水化成品。その後、当社グループの製品は、さまざまな事業領域でエンドユーザーや消費者のライフスタイルを変革する商品に用いられてきました。  
例えば、今では当たり前となった、店舗内を自由に歩いて商品を選ぶセルフ販売。生鮮食品の鮮度を保つPSPトレー(食品トレー)の登場が、セルフ販売普及の一翼を担い、1960～70年代のスーパーマーケットの生鮮食品売場を一変させました。



発泡性ポリスチレンビーズの第1号プラント

#### 逆境を力に

1970年の万博ゴミ処理問題に端を発した、発泡スチロール排斥運動。翌年、「損して得取れ」の方針のもと、大手家電メーカーの協力を得て、発泡スチロール廃棄物の回収をスタートしました。さらに、廃プラスチックを活用したリサイクル製品の研究開発や新たな有効利用の道も模索し、新製品・新市場開拓へとつなげてきました。  
現在、海洋プラスチック問題や使い捨てプラスチックの削減、脱炭素といった世界的潮流があります。これも一見、逆境のように感じられますが、私たちが主体的に動けば「絶好の機会」です。現在、生分解性・バイオマス由来・リサイクル原料などを活用したサステナブル・スタープロダクト(環境貢献製品)の開発が進んでいます。今後も社会から求められる価値ある製品やサービスを「進取の精神」で創造し続けましょう。



1971年3月、家電製品の発泡スチロール廃棄物の回収を開始当初は、積水化成品単独で実施した



リサイクル原料や生分解性・バイオマス由来原料を活用した製品ブランド「ReNew+」「BIOCellular」をラインアップ

## 2 事業家の精神

### 青年重役会制度(ジュニアボード)による経営参画

1960年、社推会の前身である「若草会」が、社員を中心に結成されました。福本社長は、この若草会のメンバーに呼びかけ、「経営者と従業員がともに、経営を考え、行動する」若手中心の青年重役会(ジュニアボード)を立ち上げました。

ジュニアボードでは、社員から提案された課題を討議し、一つのまとまった案として正式の重役会に提出しました。承認が得られれば、全員で実行に移すという仕組みです。会社経営に社員が参画するこの制度は、経営に対する動機づけとなり、モラルを高めることにもつながりました。



ジュニアボードの会議中の様子

### 社業推進会(社推会)とは

「働く者の幸せ」を追求する組織です。経営陣を含むグループ員全てが参画する会として、1961年に発足しました。

相手の立場を尊重して徹底的な話し合いをすることで相互理解が深まり、信頼の絆が生まれてくるという「人間尊重」と「相互信頼」の考え方を基本に、仕事を通じて社会に役立つことを目指しています。



### 自ら学んで実行・相互研鑽

グループ改善活動がスタートしたのは1968年。翌年には最初の発表会が開催され、職場の問題点を自ら発掘して集団の力で改善していく取り組みとして発展しました。

この活動は、社員一人ひとりが、職場の中で何をどのように変えれば改善になり得るかを考え、テーマ選定を行います。自らの知恵を絞り、実行することで「自分が改善した!」という達成感が生まれ、全員経営に参加する実感や働く喜びにつながりました。

この取り組みは「SKG改善活動」に受け継がれ、現在では全世界から200チーム以上が参加し、切磋琢磨し合う活動として定着しています。



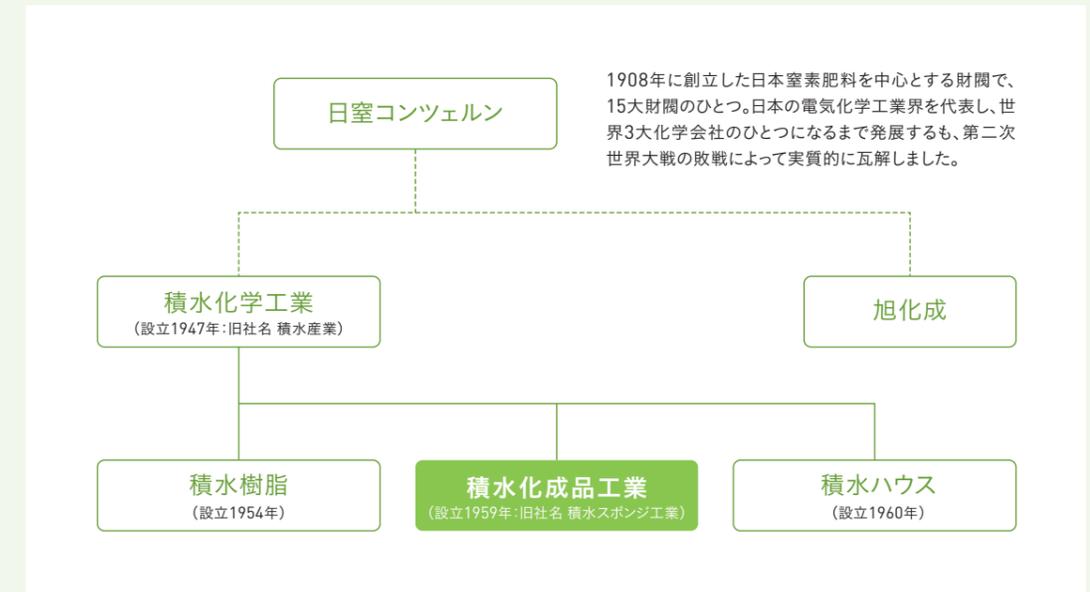
全員経営の実践の場であるグループ改善活動。1989年2月17日に天理工場で開催した第17回全社発表大会から



2019年度SKG改善活動全社大会の様子

## 積水化成品のルーツ

### 積水の成り立ち



1908年に創立した日本窒素肥料を中心とする財閥で、15大財閥のひとつ。日本の電気化学工業界を代表し、世界3大化学会社のひとつになるまで発展するも、第二次世界大戦の敗戦によって実質的に瓦解しました。

1945年の敗戦により、日室コンツェルンの海外事業・資産は失われ、1万人を超える海外勤務者と復員者が引き揚げるも、仕事が見当たらない状態でした。

「仲間を救おう」という声が届く中、1946年に福本正雄ほか日本窒素の同士が中心となり、プラスチック成形を事業目標とした「積水互助会」を結成します。翌1947年に10万円の資本金で「積水産業株式会社」を発足し、ここに「7人のサムライ」が勢ぞろいしました。

翌1948年には日本初のプラスチック自動射出成形機による事業をスタートさせ、これを機に社名を「積水化学工業」に改称しました。

### 「7人のサムライ」メンバー

1. 野崎城之助(当時33歳元徳山積水社長)
2. 三成利男(当時30歳元積水興産会長)
3. 福本正雄(当時30歳元積水化成品社長)
4. 杉田求(当時31歳元積水樹脂会長)
5. 中島茂雄(当時28歳元積水樹脂専務)
6. 秋山健一(当時27歳元積水樹脂専務)
7. 北村太三郎(当時26歳元クラウン商事専務)

## 積水命名の由来

中国最古の兵法書「孫子の兵法」に由来しています。

## 勝者の民を戦わしむるや、 積水を千仞の谿に決するがときは形なり

「戦いにおいては、満々とたたえられた水“積水”を深い谷底へ切って落とすような勢いをもって勝利することが肝要である」と説かれています。企業活動になぞらえれば、困難や課題に立ち向かう際には状況を十分に把握し態勢を整え、満々たる積水の勢いで臨むべきである、と置き換えられます。

## 3S精神

### Service

サービス

事業活動を通して社会に貢献する。

### Speed

スピード

積水を千仞の谿に決するスピードをもって、積極的に新分野を開拓する。

### Superiority

スペリオリティ

最高のシステムと最高の品質をもって、顧客信頼を獲得する。



当社の社章は、積水創業当時の社名「積水産業」の頭文字3つを亀甲マーク(化学記号ベンゼン)の中に配置して水の字を象ったものです。1959年、このマークに「3S精神」の定義づけがなされました。

“理想を掲げて生きている人間と、ただ流されて身をまかせて生きている人間とでは、長い生涯の間に大きな差が生じてくる。事業もまた同じである。事業経営の基本方針をうち出して、その共通の理想のもとに従業員が結集するとき、企業ははじめて事業共同体として大きな力を発揮することができる。”

こうした意図に基づいて、サービス、スピード、スペリオリティの3S精神が定められています。

## 積水化成品の成り立ち

1956年、積水化学は発泡性ポリスチレンビーズの研究開発を開始。約1年半の研究を経て、ドイツのバーディッシュ社がもつ製造特許領域とは異なる「積水法」の製造基礎技術を確認しました。1958年には特許出願と事業化を決定、翌1959年に前身「積水スポンジ工業」を設立し、僅か25名で創業を開始しました。

主体となるべき発泡性ポリスチレンビーズの製造プラントは建設中、当時唯一の製品であった塩ビスポンジも思うように作れず悪戦苦闘する中、1960年にバーディッシュ社から特許侵害の警告状がもたらされます。従業員5万人、世界5指に数えられる巨大化学メーカーを相手に、会社存続を賭けた国際特許係争に突入しました。

係争は、積水不利との周囲の予想を覆し「積水法はバーディッシュ社特許の技術的要素に他の要素を加えた程度のものでなく、根本から技術的思考を異にした別個の独立した特許能力を有する製法である」として、積水側の完全な勝利判決で幕を下ろしました。

積水スポンジは国内初の発泡性ポリスチレンビーズ事業を本格化、1962年には発泡ポリスチレンシート of 国産化にも成功し、成長を遂げていきました。そして、創立10周年を迎えた1969年10月1日、さらなる飛躍を期して「積水化成品工業」に社名を変更しました。



積水化学奈良工場全景。後に当社の設立拠点となる(1948年撮影)

### 設立目論見書

このプラスチックスポンジ事業の有望性に鑑み、ここに関係各社の共同出資を仰ぎ、新会社積水スポンジ工業株式会社を設立し、わが国におけるプラスチックスポンジのトップメーカーを創りあげようとするものであります。



「積水スポンジ」設立記念時の写真。奈良県南京終町の旧奈良工場にて(1959年10月1日撮影)

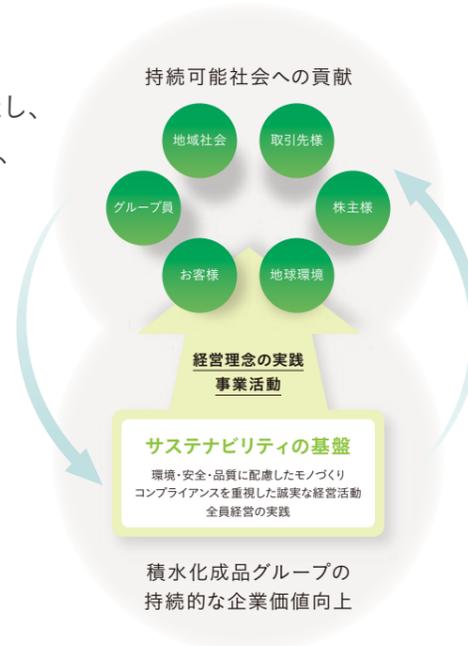


「積水スポンジ」設立当初の製品、塩ビスポンジの裁断作業風景(1960年頃撮影)



## 積水化成品グループのサステナビリティ方針

わたしたち積水化成品グループは、  
経営理念の実践を通じて地球環境を含む  
全てのステークホルダーに対して社会的責任を果たし、  
グローバルに社会の持続的発展に貢献するとともに、  
持続的な企業価値向上につとめます。



### ステークホルダーに対する責任

ステークホルダー	積水化成品グループの果たすべき責任
お客様への責任	安全・安心な製品を供給するとともに、常に新しい機能・価値を創造し、お客様の課題解決に役立つ素材・サービスをシステム発想で提供することにより、人々のより良い暮らしに貢献します。
グループ員への責任	人間尊重と相互信頼を大切に、働く者の幸せを追求します。そのため、特に能力開発、評価への公平性を高め、健康・安全に働ける職場環境づくりや仕事と家庭の両立に取り組みます。
地域社会への責任	地域にとって安全な事業場であることを最重要に考えます。 さらに、地域社会の一員として、地域の皆様に信頼され、親しまれる企業を目指します。
株主様への責任	企業価値の向上に努め、株主様へ還元することで期待に応えます。 また、積極的な経営情報の開示、株主様との対話を重視していきます。
取引先様への責任	誠実をモットーとし、公平・公正な取引を通じて取引先様との信頼関係を構築します。 また、取引先様にとってより良きパートナーとして共存共栄を目指します。
地球環境への責任	大切な地球を守るために環境良化に積極的に取り組みます。 特に、省資源素材である発泡プラスチックを中心に循環型社会の発展、低炭素化に貢献します。



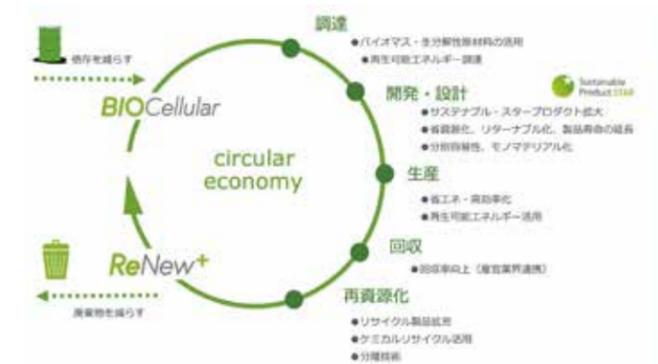
## 持続的成長を支えるESG経営の推進

持続的な成長に向けて「ESG経営」を実行するにあたり、環境・社会・ガバナンス視点のマテリアリティ(経営重要課題)を特定しました。国際的な基準やガイドライン、SDGsが掲げるゴールなどから「当社グループにとっての重要性」と「ステークホルダーにとっての重要性」の2軸で評価し、それぞれに推進項目とKPI(重要成果指標)を定めています。

### Environment 環境課題の解決に貢献する

循環経済を軸とした事業活動への転換、気候変動に対するカーボンニュートラルへの挑戦など、事業活動を通じて環境課題の解決に貢献します。

たとえば、循環経済(サーキュラーエコノミー)への転換



### Social より社会的価値のある企業へ

多様な人材がその能力を遺憾なく発揮し、組織のパフォーマンスを最大化させることで、事業活動を通じて当社グループの社会的価値を高めていきます。

たとえば、人材を最大限に活用する取り組み



### Governance 経営の健全性と公正性を高める

経営の透明性、健全性、公正性を確保しつつ、意思決定の迅速化など経営の効率化に努め、ステークホルダーの期待と信頼に応えます。

ガバナンスとはどんなこと? 目指す姿は?



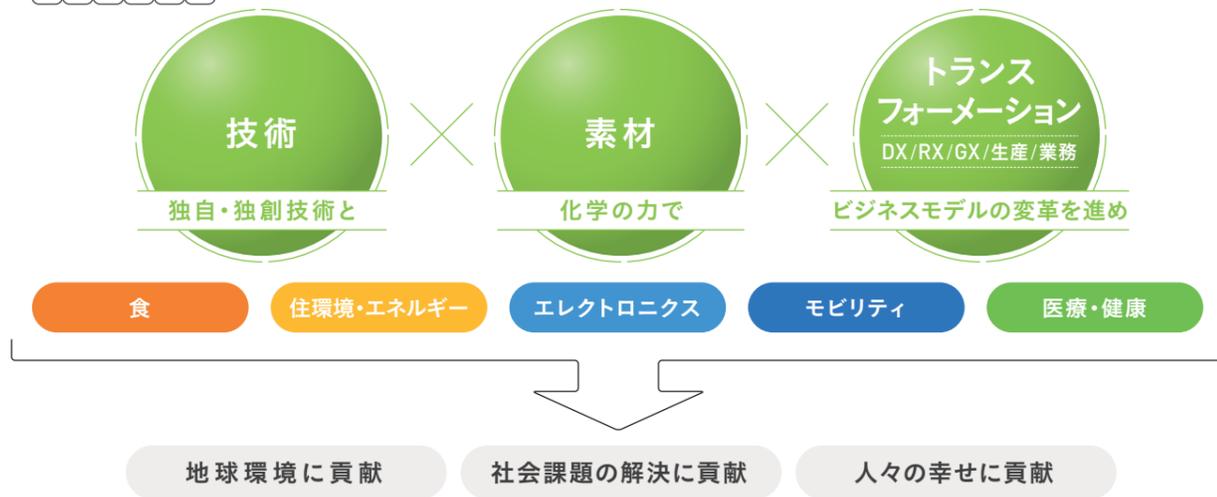
2030年に目指す事業の方向性

積水化成成品グループは、大きく変容していく社会環境や環境課題に正面から向き合い、「新しい幸せ」を実現する姿を描き、2030年に目指す姿を策定しました。従業員が全員経営で価値創造に取り組み、ビジネスモデルの転換を進めることで、社会・消費者・顧客に求められる企業であり続けます。

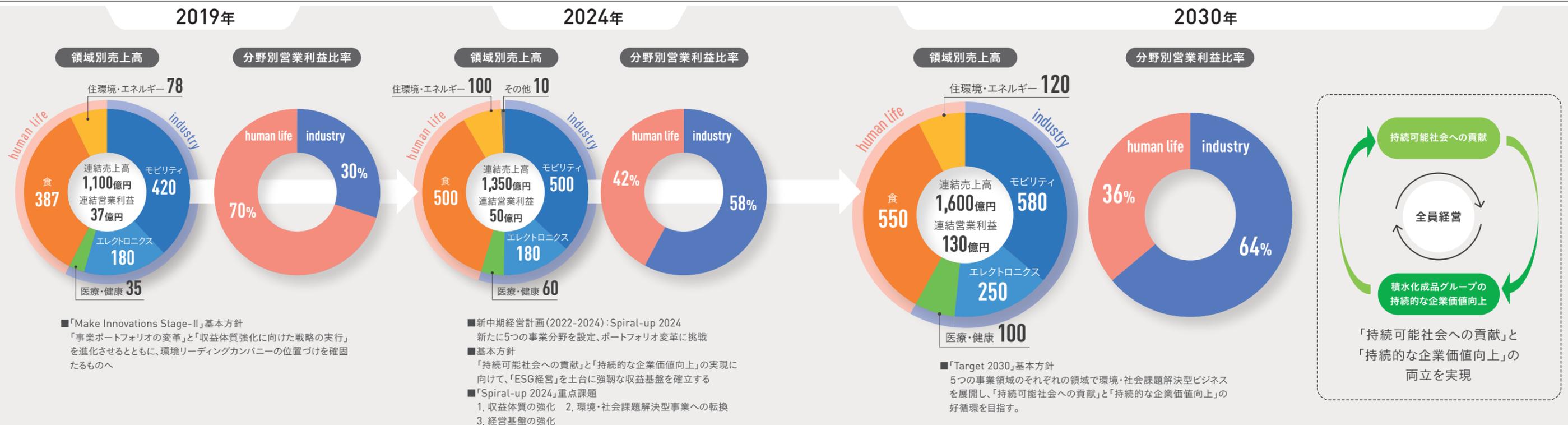
基本方針

「持続可能社会への貢献」と「持続的な企業価値向上」の両立を実現する

事業ドメイン



事業分野と展開イメージ

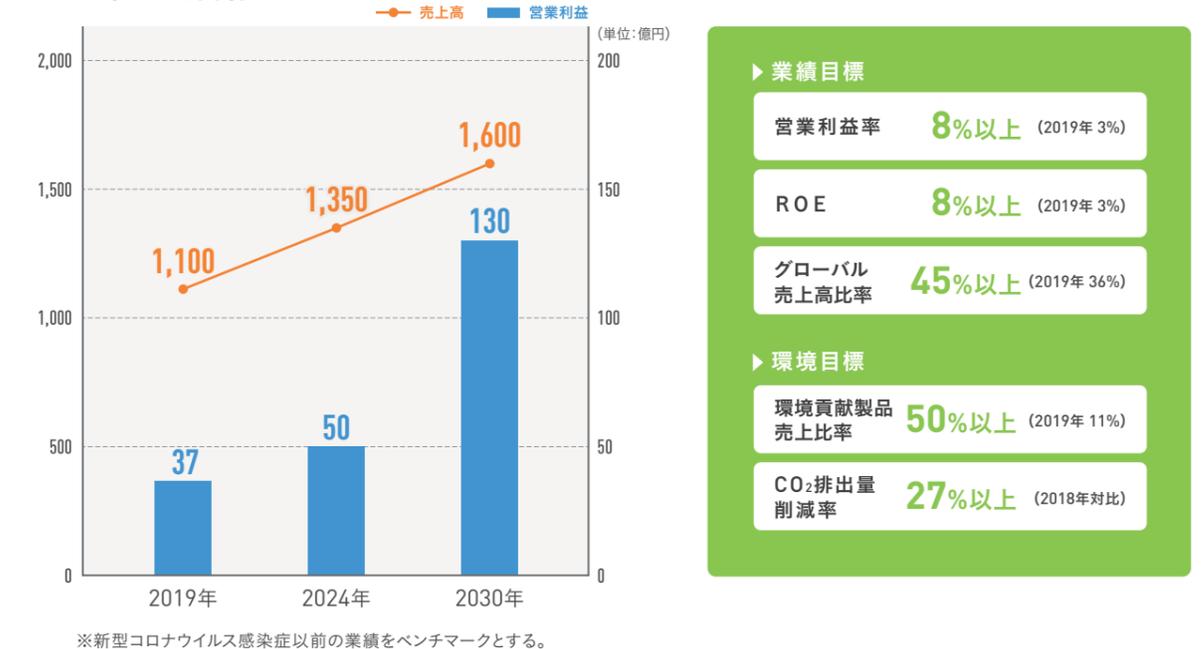


Target2030基本戦略

2030年に目指す姿を実現するために、2つの基本戦略を掲げて推進します。

- ① 高収益体質の追求による企業価値向上
- ② 持続的成長を支えるESG経営の推進

2030年定量目標



各領域での事業展開イメージ

industry  
インダストリー

エレクトロニクス

**事業ミッション**  
高度通信機器、電子部品分野でソリューション提案を進め、産業発展に貢献

**部材** ディスプレイ・照明分野の進化で需要が拡大し、微粒子のカスタマイズ開発で伸長  
高速通信技術の進歩で新規微粒子、構造部材等の採用が進み、グローバルに拡販

**梱包** 精密機器梱包など、部品物流のニーズに即したトータルソリューションで採用を拡大  
グローバル物流では、各地の環境規制に対応した環境貢献製品の採用を推進

**地域別展開(注力地域)**

**【北東アジア】** ディスプレイ・高速通信分野では、微粒子や構造部材の新性能付加を切り口に、採用や新規評価を継続  
輸送資材分野では、さらなる衝撃吸収性と輸送効率向上に向けて、新素材・設計技術・環境貢献を切り口に採用を拡大

**【南東アジア】** 梱包資材における環境負荷低減のニーズの高まりにより、設計技術を生かした環境貢献製品の採用を拡大

モビリティ

**事業ミッション**  
次世代モビリティの技術革新に加え、構成部品の物流効率化で環境価値向上に貢献

**部材** 電動化による軽量化ニーズが高まり、グローバル各拠点で採用部位の拡大が推進  
モビリティの快適空間づくりに貢献する製品開発を推進

**部品物流** 物流効率化の追求に、素材・設計ソリューション提案と資源循環システムの構築で、高収益事業を形成

**地域別展開(注力地域)**

**【北東アジア】** 日系メーカーを中心に、軽量化で新規部位の採用が拡大  
電動部品などの物流効率化に注力し、部品物流のトップメーカーに

**【南東アジア】** 部品物流分野では、設計技術に素材の優位性を加え、北東アジアでの採用事例の水平展開を推進

**【米州】** 現地メーカー車、特に次世代モビリティへの採用を拡大

**【欧州】** 新規スペックインの重要地域として、新規部位と新素材の提案を牽引し、他地域に展開

医療・健康

**事業ミッション**  
技術的優位性を活かした製品とサービスで、人々の健康増進に貢献

**医療** 高度医療・遠隔医療・体外診断薬分野において外部連携を進め、高機能素材や差別化製品を展開

**健康** ウェアラブルとパーソナルニーズ対応で高付加価値製品の業容を拡大し、グローバル市場へ展開

**地域別展開(注力地域)**

**【北東アジア】** ウェアラブル分野では、高齢化や高度医療に対応した素材・製品を展開し、関連企業との連携で事業領域を拡大

**【米州・欧州】** 関連企業と連携し、高度医療分野へ事業を展開  
環境対応素材を含めた高機能素材で用途を拡大

human life  
ヒューマンライフ

食

**事業ミッション**  
食の安全・食品ロス対策につながる製品と循環型ビジネスの推進で、サステナブルに「食」を支える

**食品物流** 輸送過程でも鮮度を保持できる温度管理設計で、食品ロス削減に貢献  
さまざまな食材を食卓まで安心して届けられる物流素材を提供

**食品容器** 発泡技術による省資源の追求と、リサイクルによる資源循環を推進  
バイオマス・生分解性プラスチックを活用した製品をグローバルで市場展開

**地域別展開(注力地域)**

**【北東アジア】** 軽量性とリサイクル原料を活用した市場展開を進め、各国のマーケットに適した製品を供給  
温度管理設計や内容物の保護により、食品ロス削減に貢献できる物流領域に展開

**【米州】** バイオマス・生分解性プラスチックの活用など、環境対応を軸にした取り組みを展開

**【南東アジア】** 機能性包装資材の展開や輸出入に関わる物流領域で、独自の製品を供給

住環境・エネルギー

**事業ミッション**  
再生可能エネルギー分野への製品提供を進め、持続可能で快適な「暮らし」に貢献

**防災・減災** 豪雨による冠水や土砂崩れを防ぐ製品や、応急や早期復旧につながる製品を展開

**インフラ整備** 老朽化が進む社会インフラの整備事業や、都市部のグリーンインフラで製品を展開

**住設** 住宅のエネルギー効率向上につながる断熱製品を展開し、複合化による機能性付与で差別化

**エネルギー** 再生エネルギー設備に対し、複合技術による軽量性と強靱性を兼ね備えた部材を展開

**地域別展開(注力地域)**

国内を中心に事業展開し、グローバルでの事業展開可能性を各拠点で検証

## 初版策定者メッセージ



積水化成は創立50周年を迎えることができました。1959年10月1日、積水化学の発泡プラスチック事業を受け持って総勢25名で産声を上げた積水化成工業（当時積水スポンジ工業）は、現在グループ全体で38社となり、グループ員2000名を越える企業体に成長しました。この間、スタートと同時に会社存亡を賭けたバーディッシュ社（現BASF社（独））との特許係争に始まり、幾多の困難を時々の諸先輩方の語りつくせぬご苦労によって切り抜けて現在に至りました。

昨年度までの5年間は「売上高1000億円、経常利益50億円を達成して50周年を盛大に祝おう」を合言葉にDASH50計画を推進してきましたが、昨秋以降の100年に一度と言われる金融危機に端を発した世界同時不況に見舞われ、目標達成は成りませんでした。しかしながら、DASH50計画の大方針である国内汎用事業の体質強化と高機能品によるグローバルな事業拡大はともに着実に進捗し、目標通りの成果を上げることができたと思えます。

2006年から現場力の向上を目指して立ち上げたSKG改善活動は現在国内の全生産現場に広がり200以上のチームが活発に活動して、生産部門の大きな力になっており、グループ会社間のコミュニケーションと競争にも多に役立っています。オール積水グループ商材の拡販も成果を上げ始め、グループ会社の収益力は着実に向上しました。積水化成グループは現在は国内25社、海外13社の計38社になり、体制は充実しました。

こうして50周年を迎えたわけですが、このたび、創立50周年から次の50年に向けた『積水化成グループ100年ビジョン』を、経営者のみならず多くのグループ員

の手によって創り上げました。この100年ビジョンの基盤となるのが、「全員経営」をスローガンとした『グループのカルチャー』です。積水化成は、「働く者の幸せのために」という創業精神のもと、「全員参加経営」「起業家・事業家精神」など、非常にユニークかつ素晴らしい風土を培ってきており、これらが経営基盤になってきました。今回の『カルチャービジョン』はこれをさらに発展させ、海外も含めてグループ全体に浸透させようというものです。これをグループ全員で共有し、実践していくことがビジョン実現への必須条件であると考えています。また、『事業ビジョン』では、現在のバイオセランを軸とした高機能品での海外展開をさらに充実させて、国内でやっているオール積水グループ商材拡販の世界展開を進め、真のグローバル企業への変革を図ります。さらに『CSRビジョン』においては、人と環境をベースとして、事業を通してだけでなく社会貢献にも力を入れていきます。

今後は皆で創り上げた100年ビジョンをグループ全体の経営のバイブルにしていきます。手始めに、これに沿った新中期経営計画を2010年からスタートします。但し、創ったビジョンは不変・不滅ではありません。タイミングよく改良・変更を加えていく必要があります。絵に描いた餅に終わらせないためには「変えないなら守る。守れないなら変える。」です。

我々の持っている製品、技術は世界で十分通用すると思えます。今後も新製品・新技術開発を続けて、「グローバルに顧客から信頼されるプラスチック・ソリューション・カンパニー」をグループ員全員で創り上げていきましょう。

2009年10月

## 第二版改訂者メッセージ



積水化成創立50周年を機に皆で創りあげた100年ビジョンは、当社グループの目指すべき姿を描いており、経営のバイブルとして守り続けたいと考えています。一方で、「変えないなら守る。守れないなら変える。」と位置づけられていますように、経営環境の変化に伴い、タイミングよく確認や検証をすることも必要です。ここ数年間の経営環境と当社の取り組みを鑑み、100年ビジョンの内容を確認するタイミングにきているのではないかと考え、特に事業ビジョンとカルチャービジョンについて、役員や若手チームメンバーと一緒に確認作業を行いました。ビジョン発表後6年を経た2015年の創立記念日に合わせて、第2版を皆さんにお届けします。内容をよく読んでいただき、それぞれの職場や社推会で議論していただきたいと思えます。

順調にスタートした100年ビジョンでしたが、東日本大震災が起こりサプライチェーンが変化し、超円高と原材料の価格高騰が当社グループの事業を直撃し、残念ながら描いていた成長戦略が停滞してしまいました。また、グローバル拠点拡大と国内再編を進める中で、グループ員も2700名を超え「全員経営」やその背景をもっと知ってもらいたいと感じる場面が増えてきました。

このような経緯を背景に、積水化成グループの100年ビジョンを絵に描いた餅にしないためにはどうあるべきかの確認が必要となりました。役員で議論するとともに、ビジョン内容を検証するために若手メン

バーに多数参加してもらい「Vision2015」を立ち上げ、議論をしてもらいました。その結果をまとめたのが第2版です。

事業ビジョンでは、当社を取り巻く経営環境を反映させ、連結売上高2000億円の達成時期を2022年度と再設定しました。創立60周年を迎える2019年度は、成長路線継続を確認するマイルストーンとします。カルチャービジョンでは、「全員経営」の礎となる実質創業者である福本正雄氏の思いと積水化成グループの創業時の歴史を追記し、「全員経営」の中身をわかりやすい表現に改めました。当社グループの人と環境を大切にCSRビジョンはそのまま進め、社会貢献に繋げていきます。

今回、事業分野の表現や目標数字を一部修正しましたが、100年ビジョンに謳われた経営理念や考え方、目指すべき姿は経営のバイブルとして守り続けます。全グループ員で「グローバルに顧客から信頼されるプラスチック・ソリューション・カンパニー」を目指すことに微塵の変更もありません。我々はこれまで通り「全員経営」を経営基盤とし、お客様のニーズに立脚した新たな製品や技術、システムやサービスを創造し、グローバルに提供し続けることで、積水化成グループに集う全員が、個人として、チームとして成長し、そして会社としても勢いのある成長と進化を続けていきたいと思います。

2015年10月